

大畠氏	鹿嶋郡山崎村阿良加志比古神社 神主	堀川氏	鳳至郡前波村神目伊豆伎比古神 社神主
關氏	鳳至郡穴水大町村邊津比咩神社 神主	杉山氏	鳳至郡明千寺村五社大明神神主
四柳氏	鳳至郡川嶋村美麻奈比古神社・ 美麻奈比咩神社兩社神主	堀内氏	鳳至郡三田村八幡宮神主
四柳氏	鳳至郡川嶋村諏訪神社神主	中川氏	鳳至郡三田村神明宮神主
四柳氏	鳳至郡宇留地村十社大明神神主	梅田氏	鳳至郡鶴川村天満宮神主
森川氏	鳳至郡鹿波村白山神社神主	加藤氏	鳳至郡宇出津村酒垂宮神主
宮澤氏	鳳至郡七海村白山宮神主	棚木氏	鳳至郡宇出津村白山宮神主
大森氏	鳳至郡平野村八幡宮神主	高原氏	鳳至郡眞脇村高倉比古神社神主
細川氏	鳳至郡市坂村八幡宮神主	橘氏	鳳至郡松波村八幡宮神主
山崎氏	鳳至郡興德寺白山宮神主	櫻井氏	鳳至郡上戸南方村柳田大明神 社神主
四柳氏	鳳至郡道下村石瀬比古神社・諸 岡比古神社兩社神主	水嶋氏	鳳至郡上戸寺社村氣多大明神 社神主
番場氏	鳳至郡皆月村山王宮神主	葛原氏	鳳至郡飯田村春日社神主
宮崎氏	鳳至郡大澤村山王社神主	森井氏	鳳至郡鹿野村天満宮神主
中村氏	鳳至郡輪嶋村天満宮神主	櫻井氏	鳳至郡正院村八幡宮神主
淺井氏	鳳至郡輪嶋村鳳至町住吉神社神主	青木氏	鳳至郡經念村古麻志比古神社 社神主
能門氏	鳳至郡輪嶋河井町重藏神社神主	龜山氏	鳳至郡長橋村北嶋荒崎神明社 社神主
森氏	鳳至郡房田村白山神社神主	別立	
引持氏	鳳至郡別所谷村神明宮神主	建部氏	石川郡三宮村白山比咩神社神主
帶壁氏	鳳至郡別所谷村八幡宮神主	建部氏	石川郡鶴來村金劔宮神主
水上氏	鳳至郡大野村五社大明神神主	河崎氏	石川郡中村大野湊神社神主
鷲嶽氏	鳳至郡谷内村鷲嶽宮神主	櫻井氏	石川郡一宮寺家村氣多神社神主
中川氏	鳳至郡里村住吉神社神主	船木氏	鳳至郡所口村能登生國玉神社 社神主
大瀧氏	鳳至郡德成村布戸大明神神主	清水氏	鳳至郡石助山伊須流岐比古神 社神主
瀬野氏	鳳至郡粟藏村白山宮神主	大森氏	同上
四柳氏	鳳至郡中居村奥津比咩神社神主	猿女氏	鳳至郡三崎村須須神社神主
神杉氏	鳳至郡中居村神杉伊豆牟比咩 神社神主		
大橋氏	鳳至郡中村加夫刀比古神社神主		
四柳氏	鳳至郡沖波村神目伊豆伎比古神 社神主		

ジャコツセキ 蛇骨石 鹿嶋郡上湯川・珠

洲郡馬繰から出る菊銘石をいふ。寶曆の調書に、『上湯川鎮にじやくつ石大小有之。』能登名跡志に、『この所(馬繰)に名物有り。蛇骨石とて菊銘石あり。御留山に成りてあり。』などとある。

ジャヤムジャシユウ 治哉治哉無邪集

一冊。阿北齋堀越左源次の狂歌集で、陀樂齋獨吟治哉治哉無邪集と題し、五十九歳圓明の名で序文を加へてある。又別に前書の狂歌の外に追加として、阿北齋を初め諸人の作を書き足したものがあつて、それには阿北齋雀翁狂歌集の題簽があり、五十九歳圓明を五足齋圓明としてゐる。いづれにしてもその序文は『阿北齋狂歌』に阿北齋の作として載せてゐるものであるから、圓明は即ち左源次の別號であらう。

シャセンホウ 斜線法

明治二年十月十六日金澤藩は藩士に給する従来の秩祿を改めて、給祿又は改定祿とした。この法は元高百石及び百石以下のものは給祿も舊に從ひ、三千石及び三千石以上のものは給祿を三分の一に減じ、百石以上三千石以下のものは順次遞減するを以て、これを斜線法と名づけた。斜線法によつて給祿を算出するには、『術曰、置元祿、加定法千三百五十石、倍之、以二十九個一除之。右改定祿也。』としてあつた。しかし、給祿といふものも、尙従来の草高の如くで、士族の受領する現石支給高は、別に『又置改定祿高、乘平均免一八、三歸而、乘定口法一一二二、以口米法一〇二二除之。右現石高也。』の法によつて算出した。現石高は又家祿とも稱せられる。これ加賀藩

に於いては、士人の知行草高千石以下百石以上なるものに對しては、その三分の一を免三ツ六歩の加州知を以てし、殘三分の二を免四ツ一步の能越知を以て支給した法を採つて、普く上下一般に適用したものである。之によつて舊祿三千石のものは給祿三百石現石百二十八名六斗四升三合となり、舊祿百石のものは給祿百石現石四十二石八斗八升一合となつた。しかし高祿者の中從來特に高率の知行を受けたものには稀に特別によるものもあつた。又組外の士・與力及び平士並の階級にあつては、元來下免と稱して、加州知免三ツ五分、能越知免四ツの割合で支給せられたから、その給祿・家祿の算出も別の法に據つたのであらうと思はれる。

シャダ 舍采

金澤の俳人、所居を鳥道下といふた。麥林の門に學び、延享五年に其燈を上梓した。それには七十二人道舍采と記する。

シャダイ 車大

金澤の俳人。後川の門から出で、初め黄山舎といふたが、寛政九年後川から暮柳舎三代の繼席を許され、希因の五十回忌法會を豫修して、追悼句集ゆめめあを板行した。その他著す所に、雨のはし・まじりざき・生自物・四時の月・四時の風がある。車大の俗名・忌辰は凡べて詳かでないが、その春帖草摘は文化十四年に終つてゐる。

ジャタイセキ 蛇胎石

鹿嶋郡の永光寺創建の時、巨石を埋めて本堂を造つたが、落成の夜天地鳴動して堂宇倒壊し、巨石は再び顯れ出た。依つて之を避けて再建し、その石を蛇胎石を名づけたといふ。今本堂の前に一角を露出するもので、石質は角閃花崗岩である。